

セネガル国 非感染性疾患対策強化プロジェクト

通称：Aaru Ci MNT (アーロウチ・エム・エヌ・ティ)

ニュースレター第5号

2025年 11月発行

JICA運営指導調査の実施：アーロウチMNTの第2期に向けて

2025年7月14日～22日にかけて、JICAによる運営指導調査が行われました。調査は、アーロウチMNT第1期（2023年6月～2025年5月）の成果を振り返りながら、2028年8月まで続く第2期の進め方や実施体制を整えることを目的としています。調査では、第1期で得られたいくつかの大切な成果が確認されました。まず、「国や現場の

関係者が一緒に話し合い、考え、取組を進める体制」が強まり、NCDs課、州保健局や保健区の関係者が主体的に事業を進められるようになったことが大きな成果のひとつです。関係者の高い意欲と関りにより、



トゥーバ保健区チームとのアーロウチMNTの第1期の振り返りと第2期の活動に関する協議



保健衛生省(MSHP)事務次官との、NCDs対策に関する優先事項と課題についての意見交換

限られた人員や予算をより効率よく使えるようになってきました。さらに、健康開発研究所（ISED）と連携して実施した「第1回 高血圧症・糖尿病およびその合併症の予防と管理に関する国家研修」において、セネガルのNCDs対策の中心となる医師が育成され、関係者から高く評価されました。

一方で、第2期で取り組むべき課題も明確になりました。医療従事者の能力強化、他セクターとの連携促進、情報システムの改善に加え、セネガルの文化や生活習慣に合った誰にでも分かりやすい情報発信の強化する必要があります。運営指導調査で得られた結果を踏まえて、プロジェクトでは第2期の具体的な活動計画ワークプランを作成しました。

NCDs対策強化のための医療機材供与

2025年7月16日、ジュールベル州病院にて医療機材供与の贈呈式を実施しました。アーロウチMNTでは、総額8,000万CFA（およそ2,000万円相当）の医療機材を、プロジェクトの対象となる保健区（ジュールベル、バンベイ、ンバケ、トゥーバ、ティエス）のすべての保健施設に届けています。これは、すべての保健施設でNCDs対策のために必要な機材をそろえ、管理できる体制を強化することを目的としています。今回提供した主な機材には、血圧計、血糖測定器、体組成計、睡眠時無呼吸症候群を調べるポリグラフ、足の血流を測る自動ABI測定器などがあります。これらの機材を活用することで、NCDsの予防、検診、診療の質を高め、保健区での取り組みをよりしっかり支えていくことが期待されています。セレモニーには、ジュールベル県の副知事であるジブリル・ディオップ氏をはじめ、副市長、プロジェクト対象州および対象保健



副知事（中央）を囲んで、新病棟前で行われた機材引き渡し式の集合写真

区の関係者、運営指導調査団、JICAセネガル事務所、ジュールベル州病院の関係者など25人が参加しました。ジュールベル病院長のボカール・ソウ氏からは、「JICAの機材供与は大変ありがたく、セネガルにおける死亡原因の53%を占めるNCDsの診療の改善に大きく役立つ」との感謝の言葉が述べられました。今回のセレモニーは、アーロウチMNT第2期のスタートを象徴する大切なイベントとなりました。

「DISTRICT CHEZ VOUS」

バンベイ保健区で実施した啓発・検診活動の大きな成果

2025年10月9日～10日に、バンベイ保健区のンデレップ保健ポストとクール・サンバ・カン保健ポストにて、第2回「District Chez Vous」を実施しました。「District Chez Vous」はコミュニティ住民を対象とした健康チェック（スクリーニング）イベントで、バンベイ保健区では2024年10月に続き、今回で2回目の開催となります。今回のイベントでは、計562人の住民が高血圧症と糖尿病のチェックを受ける機会となりました。その結果、地域の幾つかの健康課題が明らかになりました。まず、参加者の29%に高血圧症の兆候が見られました。また、女性の約50%が腹部肥満であることが分かりました。さらに、すでに高血圧症と診断されている人のうち、血圧がきちんと管理できていた人はわずか9%にとどまりました。このような状況を改善するためには、コミュニティと連携しながら、患者を継続的にフォローし、支えていく体制を強化することが不可欠です。今回の「District Chez Vous」では、地域リーダーやコミュニティ保健人材と協力し、健康チェックに加えて、啓発活動にも力を入れました。これらの取組みは、ジュールベル州におけるNCDsの早期発見と予防の進めるための重要な一歩となっています。



啓発活動に参加し、熱心に話を聞く地域住民

医療従事者のNCDs対応能力強化の取組み

2025年10月には、医療従事者の知識やスキルを高めることを目的として、「糖尿病・高血圧症管理およびNCDsデータ管理研修」をジュールベル州とティエス保健区で実施しました。ジュールベル州では、10月14日から16日にかけて、保健区管理チームや州病院の医療従事者を対象に研修を行い、計27人が参加しました。この研修では、高血圧症と糖尿病ケアの進め方を分かりやすくそろえること（標準化）や、NCDsに関するデータの記録・管理方法の統一を図ることを目指しました。また、ジュールベル州でNCDs対策を担う人材の育成にも取り組みました。ティエス保健区の研修は、アーロウチMNTで第1期に実施した同様の研修のまだ受けていない医療従事者を対象に、10月21日～23日に実施しました。新しくできた医療施設や民間の医療機関から24人が参加しました。民間の医療機関が多いティエス保健区では、公的

・民間を問わず保健区全体で高血圧と糖尿病の対応のしかたをそろえることが重要です。そのため、民間の医療機関も含めて実施しています。



開会式にて挨拶を述べるジュールベル州保健局副局長

高血圧と糖尿病予防を担う165人のコミュニティ保健人材を育成



バンベイで実施された、参加者による血圧測定の実技演習

2025年10月、ジュールベル州の3つの保健区において、コミュニティ保健人材を対象とした「NCDsオリエンテーション（非感染症疾患に関する基礎研修）」を計5回実施しました。この研修は、コミュニティ保健人材が、高血圧症および糖尿病の簡単なチェック（スクリーニング）や予防活動を現場で適切に行えるようにすることを目的に、実際の活動に役立つ内容を重視して行われました。トゥーバで71人、バンベイで68人、ジュールベルで26人が参加しました。コミュニティ保健人材は、地域の健康を支える重要な存在です。彼らはスクリーニングを行うことと、健康づくりのための呼びかけや情報発信（啓発活動）を行うことという2つ役割を担っています。研修では、地域でのNCDsの予防と対応を強化するため、参加者は予防に関する知識を学びました。また、血圧測定、血糖測定、腹囲測定など、正しい測り方を身につけました。さらに、医療機関での受診が必要な住民を適切に病院へ案内する手順についても学びました。加えて、地域住民へのわかりやすい説明のしかたや患者の継続的なフォローアップ方法も学びました。これにより、参加者は病気の早期発見と、その後の継続的な管理に貢献できるよう、実践的な力を高めました。

今後の予定(2025年第4四半期)

- NCDsの予防とスクリーニングに関するコミュニティ保健人材研修(ンバケ、ジュールベル)
- NCDs管理のための必須医薬品の定量化ワークショップ(ダカール)
- 脳卒中およびその他の心血管合併症の管理に関する指導者研修(ジュールベル)
- NCDs専門医研修後のスーパービジョン